

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22401047

研究課題名(和文)台湾原住民族の民族分類と再編に関する人類学的研究：学術、制度、当事者の相互作用

研究課題名(英文) Anthropological Study on the Classification and Reconstruction of the Ethnic Groups about Taiwan Indigenous Peoples in Their Historical Context

研究代表者

野林 厚志 (Nobayashi, Atsushi)

国立民族学博物館・研究戦略センター・教授

研究者番号：10290925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円、(間接経費) 3,750,000円

研究成果の概要(和文)：台湾のオーストロネシア系の先住民族である原住民族の分類の歴史的過程を、日本統治期に収集された学術資料(言語資料、民族誌、博物館資料)の整理と再評価によって明らかにし、それらの分類体系の根拠となった事象(言語体系、社会組織、物質文化等の諸要素)が今日の民族の分類と再編に与える影響を現地調査にもとづき探究した。彼らの言語、社会組織、物質文化は統治期間中に総督府の役人や研究者によって克明に調査された。これらは第二次世界大戦後の新たな民族分類に限定的に採用された。現在、進行している民族の再編は採用されなかった分類の調査で得られた資料にもとづく場合も多く、日本統治時代の学術資料の重要性が再確認された。

研究成果の概要(英文)：We studied academic records including linguistic, ethnographic and museum objects which were collected during Japanese colonial period in Taiwan, and investigated the historical process of classifying ethnic groups of Taiwan indigenous peoples. We also inspected how language system, social relationship and material cultures of them might give the effects to the classification and reconstruction of ethnic groups in Taiwan at the present. Their languages, social system and material cultures had been studied by the officer of the colonial government or scholars. Their result was partly used when indigenous peoples were classified into new groups after WWII. Some indigenous groups complain the existing classification and try to reconstruct the different populations. They ask academic records during the Japanese colonial periods for a basis of the ethnicity and the importance of academic records increases.

研究分野：人文学C

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：台湾原住民族 民族分類 日本統治時代 エスニシティ 人類学 物質文化 言語文化 文化資源

1. 研究開始当初の背景

台湾には人口の大多数を占める漢族系住民のほか、全体の約2%弱をオーストロネシア系諸民族が占めている。彼らは現在、台湾原住民族という公的な総称を与えられており、社会的には台湾の先住民族として認知されている。一方で、言語、社会組織、慣習、物質文化、歴史経験、そしてそれらにもとづくエスニシティのありかた等によって複数の民族集団に分かれている。こうした分類の作業や民族集団の定義は、歴史的に施政者や研究者が行ってきた。現在の民族構成は日本統治期になされた分類がもとになっている。一方で、1980年代以降、台湾の民主化が進む中で、当事者自らが分類の作業に関わるような状況が生じ、民族集団の再編が進んできた。

2. 研究の目的

本研究では計画している研究期間内に次の3つの課題に取り組むことを目的とした。(1)日本統治期における分類体系が形成された歴史的経緯を明らかにする。(2)それらの分類体系を構築する根拠となった事象(言語体系、社会組織、物質文化等の諸要素)を、日本統治期に収集された学術資料(言語資料、民族誌、博物館資料)の整理と再評価によって明らかにする。(3)従来からの主要な分類の下位に位置づけられてきた集団が独立した集団として分類、再編されていく過程と、彼らの周囲の他者集団による認識の様相を現地調査によって明らかにする。

以上の調査、研究結果をもって、民族の分類という営為が、先住民族自身、先住民族をとりまく社会、分類を主体的に行ってきた施政者や研究者、すなわち、学術、制度、当事者の三者の関係を台湾における先住民族族を具体的な事例として探究し、相互作用も含めた民族分類の本質を明らかにすることを課題の最終的な到達点とする。

3. 研究の方法

本研究では、台湾で現在、進められている原住民族の認定の根拠とされている言語、歴史経験、社会組織、物質文化、土地所有概念等の諸問題について、具体的な事例や地域を対象とする現地調査を行い、日本統治期の学術資料に対する現地の認識状況に関する基礎的なデータを収集する。次にデータの基本情報ならびに分析結果を、本研究課題の参加者、現地の行政関係者や研究者、当事者である原住民族の人々と共有するためのワークショップを2年目と4年目に現地でもしくは参画する。2年目のワークショップは抽出された問題点や課題を、次年度以降の調査にフィードバックさせる位置づけとする。4年目のワークショップは総括的に位置づけ民族分類と再編に関わる人類学的なモデルを相互議論から引き出す。

4. 研究成果

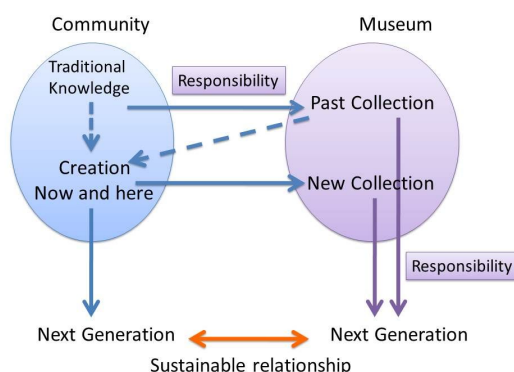
本課題研究を実施して得られた研究成果は(1)日本統治時代初期における台湾原住民族の民族分類の作業過程とその結果の行政ならびに学術界への影響が明らかとなった。(2)日本統治時代に記録、収集されてきた各種の資料が今日の民族アイデンティティに関わっていく動態が明らかとなった。

(1)は研究分担者である笠原、森口、松岡が中心となって取り組んだ。

日本統治時代初期には統治体制の基盤整備をすすめるために、台湾における現情把握が断続的に行なわれていった。とりわけ、原住民族居住地域においては、蕃務本署調査課(1910)ならびに、本来は漢族系住民を対象にしてきた臨時台湾旧慣調査会に設けられた蕃族科が中心となり、台湾各地での本格的な調査に着手した。それまでに清朝統治期の分類を参照しながらおおまかな民族分類が行われてはいたが、従前の調査は日本統治政府が独自で行った、それまでひとくりにされていた大きな民族集団の内部の分類も含めた詳細なレベルのものであった。しかしながら、これらの結果は後に統治政府が採用した民族集団ならびにその下位分類とは必ずしも一致しないことが歴史史料の比較を通して明らかとなった。これは、施政者側が実施した調査を施政者自身が利用しなかった、もしくは利用できなかったことを示している。すなわち、施政の実践においては詳細な民族分類は必要とされていなかったことが考えられ、これは植民地における先住民政策の実態を批判的に検討する重要な知見ととらえることができる(笠原論文2、8、9、図書3)。すなわち、住民不在の先住民政策の実施が可能性としてうかびあがってくる。実際に行われた施政の一つである戸口調査では調査簿に「種族欄」という民族集団の所属を記載する部分が設けられたにも関わらず、原住民族の人たちは「生蕃」というひとくくりのかたちで扱われ続けていたことが指摘されている(松岡図書6)。一方で、こうした詳細な調査結果が学術界に与えた影響は少なからずあり、当時の原住民族研究の一つの到達点である、台北帝国大学土俗・人種学教室から刊行された『台湾高砂族系統所属の研究』にも少なからず手がかりを与えたことも指摘されることになり(笠原図書3)。こうした学術研究を担う当事者の履歴についても明らかにすることで、原住民族の分類作業に関わる調査の観点がどのような背景をもって選択されていったのかを理解する糸口が得られた(森口図書4)。それは文化事象の平面的な展開を地域的に比較するという視点であり、物質文化、特に、装飾芸術作品の分類とパターンが関心の対象とされていた。平面的な展開の部分が後の原住民族分類の礎となる調査に生かされていたのは特に注目に値し、地域的な比較結果を裏付ける歴史的な脈絡をとらえることが原住民族

分類に求められたことが理解できる。

(2)は主として、宮岡(研究分担者)と野林(研究代表者)が中心となって取り組んだ。宮岡は、伝統、慣習行事とエスニシティとの関係について、伝統祭祀(ツォウ族/マヤスヴィ)が「重要民俗」に指定された経緯等に関する基礎資料収集調査や、象徴的な民族資料に焦点をあてた文献渉猟と現地のフィールドワークを実施した。これらの調査、研究からは本研究計画の主要な課題である、日本統治時代の民族分類と現代におけるエスニシティの覚醒から派生している民族分類との連続性や変化を考察していくうえで不可欠となる基礎データが得られた。重要な知見は、社会の中で踏襲されてきた身分とその象徴的な資料は社会をとりまく政治経済状況で変化しうるということである。とりわけ、社会を秩序づける指導的身分が、社会の中で自律的に発生したものであるとは限らず、外部環境との相互作用の中で決定される余地があることが、ツォウ族の伝統的リーダーシップの地位を通して明示されたことは特筆に価する(宮岡図書2)。野林はこうした日本統治時代の主として物質文化のもつ意味を原住民族ならびに平埔族の現代の文化復興活動の中に実践的に位置づけてきた(野林雑誌論文1、図書1)。そこで、構築された一つのモデルは、原住民族と博物館とが協働関係をむすぶうえでの結節点が、現地の言葉で「重製」「重建」とよばれる工芸生産である。これは、過去に収集された民族資料の調査、分析を行うことによって、笠原らが示した下位分類が現在の民族認識にも通じるものであることを実践的にしめすものである。すなわち、施政者が行政的にしめた分類に含まれる下位の(詳細な)分類が実体をともなって存在しつづけてきたことである。そして、それを継承させることが民族の分類も保持することにつながることは、民族分類の将来的方向性を示すこととなった。



また、研究計画参加者全員で、現地における原住民族の文化研究の中核機関である国立台湾史前文化博物館(台湾台東市)において、戦後における原住民族社会の変容に関するワークショップ(2012.01)を開催し、台湾の研究者ならび当事者である原住民族の

人々と民族分類に関する議論の場を設けた。日本統治時代と現在とを連結させて考えていくうえで、不可欠となる1970年代から80年代にかけての当事者の民族意識やエスニシティに関する基本的なデータを、従来の聞き取り中心の調査から双方向的な議論を通じた手法によって収集することができた。これには、原住民族側からの施政者、支配者の分類、原住民族内での他者分類という、「オクシデンタリズム」的要素も含まれており、新たな課題を今後考えていく材料として貴重であると判断している。

以上の成果は、中間報告書を電子ファイル化(PDF・A4版・122頁)し関連諸分野の内外の研究者に配信した(2013.6)。従来の科学研究費補助金による研究成果は終了年度に紙媒体による研究報告書をまとめるものが多かったが、本課題では中間時の成果を公開し、他の研究者による批判的検討により議論をきたえ、後半の研究活動をより洗練していくことを企図した。研究課題全体の総括的な成果としては、2014年6月に『台湾原住民研究の射程—接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編・野林主編)を上梓し、研究分担者ならびに研究代表者各人の総括的な成果論文を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

1. 野林厚志「原住民スーヴニールの製作と流通——沢沢敬三の『南島見聞録』と台湾収集資料をてがかりに」『台湾原住民研究』査読有17号2013, pp.102-117

2. 笠原政治「森丑之助と台湾原住民族の分類」『台湾原住民研究』査読有17号2013, pp3-24

3. 宮岡真央子「呉鳳をめぐる信仰・政治・記憶」『台湾原住民研究』査読有17号2013, pp1-1

4. 野林厚志「国立民族学博物館収蔵の平埔族資料——収集された背景と物質文化の特徴」『族群歴史文化與認同 台湾平埔原住民』(Proceedings)査読無2013, pp1-25

5. 森口恒一「フィリピン・台湾の口承文芸」『アジア民族文化』査読有12号2013, pp1-25

6. 野林厚志「『佐久間財団蕃族参考品』の収集活動」『台湾原住民族の民族分類と再編に関する人類学的研究 学術、制度、当事者の相互作用・中間報告書』査読無2012, pp65-119

7. 笠原政治「台湾原住民族を俯瞰する——伊能嘉矩の集団分類をめぐる」『台湾原住民研究』査読有16号2012, pp3-31

8. 笠原政治 「『台湾蕃人事情』以前 助走段階の原住民族分類」『台湾原住民族の民族分類と再編に関する人類学的研究 学術、制度、当事者の相互作用・中間報告書』(国立民族学博物館) 査読無 2012, pp1-20

9. 宮岡真央子 「『台湾日日新報』にみる烏居龍蔵の第5回台湾調査 附記事一覧、談話録、講演録」『台湾原住民族の民族分類と再編に関する人類学的研究 学術、制度、当事者の相互作用・中間報告書』査読無 2012, pp 45-64

10. 小川正恭・黄智慧・石村明子・松岡格 「台湾原住民族と八八水害」『台湾原住民研究』 査読有 16号 2012, pp69-122

11. 松岡格 「台湾原住民と民族・分類」『台湾原住民族の民族分類と再編に関する人類学的研究 学術、制度、当事者の相互作用・中間報告書』 査読無 2012, pp34-44

12. 松岡格 「彝族与高山杜鹃：论园艺文化以外的花文化」『民族学刊』 査読有 第7期 2011, pp48-55

13. 松岡格 「台湾原住民社会地方化の日本統治時代における展開」『日本台湾学会報』 査読有 13号 2011, pp25-50r

14. 宮岡真央子 「台湾の先住民との出会いと交流 140年前の出来事をめぐって」『月刊やいま』 査読無 210号 2010, pp173-179

15. 野林厚志 「展示会「百年來の凝視」を共催して 順益台湾原住民博物館 開館15周年記念特別展」『台湾原住民研究』 査読無 14号 2010, pp14-15

〔学会発表〕(計31件)

1. 野林厚志 「博物館と知的財産 民博における管理の体制といくつかの事例」『国際ワークショップ「コンピュータとドキュメンテーション 民族学資料のデジタル化とその利用」』 2014.3.3 国立民族学博物館

2. Atsushi Nobayashi 'The Role of Museum Materials on Name-Correction Movement of 'Ping-pu' Peoples in Taiwan' "《International Symposium》 "Social movements and the production of knowledge: politics, identity and social change in East Asia" " 2014.2.22 ~ 2.23 National Museum of Ethnology, Osaka

3. 野林厚志 「台湾原住民に関する情報遺産の記録化」『国際ワークショップ「伝統知、記憶、情報、イメージの再収集と共有 民族

誌資料を用いた協働カタログ制作の課題と展望』 2014.1.29 国立民族学博物館

4. 笠原政治 「日本における台湾原住民族研究の回顧と展望」『ワークショップ・台湾史研究の回顧と展望(3)』 2013.12.6 早稲田大学台湾研究所

5. 笠原政治 「映像解説「パイワン族の採訪記録」(1937年、アチックミュージアム)」『歴博映像祭「映像民俗学の先駆者たちー渋沢敬三と宮本馨太郎」』 2013.11.22 国立歴史民俗博物館

6. 宮岡真央子 「呉鳳をめぐる信仰・政治・記憶 植民地統治の遺物の暴力性が発揮される状況に関する一考察」『第6届台日原住民族研究論壇』 2013.8.28 国立政治大学(台湾台北市)

7. 笠原政治 「足並が揃わない原住民族分類 『番族慣習調査報告書』を中心に」『第6届台日原住民族研究論壇』 2013.8.28 国立政治大学(台湾台北市)

8. 野林厚志 「民族誌展示を考える-日本国立民族学博物館展示リニューアルを事例に」『第6届台日原住民族研究論壇』 2013.8.27 国立政治大学(台湾台北市)

9. 宮岡真央子 「呉鳳をめぐる信仰・政治・記憶 植民地の遺物の暴力性が発揮される状況に関する一考察」『日本文化人類学会第47回研究大会』 2013.6.8 慶應義塾大学

10. 宮岡真央子 「牡丹社事件 をめぐるモノの記憶と政治」『第30回日本オセアニア学会研究大会』 2013.3.23 日光市:日光総合会館

11. 松岡格 「『台湾原住民社会の地方化』著者との対話」『早稲田大学台湾研究所ワークショップ』 2012.11.30 早稲田大学

12. 松岡格 「ジンポー族の20世紀 首長制社会とその再編」『ワークショップ「中国語圏のエスニック・マイノリティ 近代における社会変化の諸相」』 2012.7.21 早稲田大学

13. 森口恒一 「フィリピン・台湾の口承文芸」『アジア民族文化学会春季大会 第23回大会(招待講演)』 2012.5.12 共立大学

14. 森口恒一 「台湾原住民の伝承と歌謡」『国際学術シンポジウム「台湾原住民の音楽と文化」(招待講演)』 2012.4.14 ~ 4.15 天理大学

15. 松岡格 「原住民文化の奥深さ 花文化研究からのアプローチ」『国際学術シンポジウム「台湾原住民の音楽と文化」(招待講演)』 2012.4.14 ~ 4.15 天理大学

16. 松岡格「日本文化二講：米と花」『西南民族大学国際彝学講演』2012.3.20 西南民族大学

17. 宮岡真央子「学術探検家・森丑之助と鳥居龍蔵」『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 開館1周年記念企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」記念講演会』2012.2.19 徳島県文化の森イベントホール

18. 松岡格「ウィル・キムリッカ『多文化時代の市民権』書評」『エスニック・マイノリティ研究会第20回研究会』2012.2.4 早稲田大学

19. 野林厚志「国際連携展示『百年來の凝視』を通じて考えたこと」『民族自然誌研究会第65回例会』2012.1.21 京都大学

20. 笠原政治「台湾原住民族研究の過去・現在・未来」『比較民俗研究会第113回研究会』2011.12.24 神奈川大学

21. Atsushi Nobayashi 'Work of Tadao Kano, an entomologist and ethnologist who worked in Taiwan. topics on biodiversity and importance of museum' "Biodiversities and genetics, a depth view from ancient to modern evidences." (Overseas Sokendai Lecture) 2011.11.27 National Taiwan University, Taipei

22. Atsushi Nobayashi 'Comments on 'New Trends in Taiwan Anthropology'' 『国際シンポジウム「東アジアの光と影：健康、富裕、『餓鬼』』2011.9.10 国立民族学博物館

23. 野林厚志「原住民族と漢族との関係性の中にある物質文化 パイワン族社会における2つの創作物のもつ社会的意義」『第三回台日原住民族研究論壇』2011.8.26 国立政治大学、台北

24. 松岡格「戦後台湾における『山地』行政の政治施策 対原住民政策の中核方針」『中国社会文化学会2011年度大会』2011.7.9 東京大学

25. 笠原政治「我的台湾原住民族研究（齋藤啓介通訳）」『国立政治大学民族学系講演会』2011.6.20 国立政治大学

26. 宮岡真央子「歴史事件の再解釈と資源化 台湾原住民族パイワンによる「牡丹社事件」をめぐる交渉」『日本文化人類学会第45回研究大会』2011.6.12 法政大学

27. 野林厚志「日本国立民族学博物館和典蔵資料」『行政院原住民族文化園區「原住民傳

統建築建造維修及庭園營造植栽撫育培訓班』2011.5.26 台湾原住民族文化園區

28. 野林厚志「台湾における民族考古学の系譜」『楊南郡先生及其同世代台湾原住民研究與台湾登山史國際研討會』2010.12.12 法政大学

29. 笠原政治「日本統治下の台湾における民族学と馬淵東一」『国際シンポジウム「近代の日本意識の成立 日本民俗学・民族学の貢献：昭和前半」』2010.12.12 法政大学

30. 宮岡真央子「時代を隔てた二人の学術探検家 森丑之助と楊南郡」『楊南郡先生及其同世代台湾原住民研究與台湾登山史國際研討會』2010.11.6 国立東華大学、花蓮

31. 笠原政治「楊南郡先生と日本統治時代の学者群像」『楊南郡先生及其同世代台湾原住民研究與台湾登山史國際研討會』2010.11.6 国立東華大学、花蓮

〔図書〕(計23件)

1. 野林厚志, 順益台湾原住民博物館「平埔族の物質文化の境界性 国立民族学博物館の収蔵資料を事例として」『台湾原住民研究の射程 接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編) 2014, 400p

2. 宮岡真央子, 順益台湾原住民博物館「ツォウのタファゲに関する覚書」『台湾原住民研究の射程 接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編) 2014, 400p

3. 笠原政治, 順益台湾原住民博物館「旧慣調査と原住民族の分類」『台湾原住民研究の射程 接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編) 2014, 400p

4. 森口恒一, 順益台湾原住民博物館「移川子之蔵とハーヴァード大学」『台湾原住民研究の射程 接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編) 2014, 400p

5. 宮岡真央子, 風響社「歴史的事件の再解釈と資源化 台湾原住民族パイワンによる牡丹社事件をめぐる交渉」『境域の人類学』(上水流久彦・西村一之・村上和弘編) 2014

6. 松岡格, 順益台湾原住民博物館「日本統治下台湾の身分登録と原住民 制度・分類・姓名」『台湾原住民研究の射程 接合される過去と現在』(日本順益台湾原住民研究会編) 2014, 400p

7. 野林厚志, 臨川書店「台湾原住民の移動 - 居住地分布と居住様式の特徴からみる」『人類の移動誌』(印東道子編)

pp. 109-121, 2013, 371p

8. 松岡格, 草風館「原住民文化の奥深さ
花文化研究からのアプローチ」『台湾原住
民族の音楽と文化』(下村作次郎等編)
2013, 424p

9. 松岡格, 三弥井書店「震災の時間と社会の
時間」『震災と民話』(石井正己編)2013, 208p

10. 笠原政治(下村作次郎等との共編), 草風
館『台湾原住民族の音楽と文化』2013, 424p

11. 松岡格, 研文出版『台湾原住民社会の地方
化 マイノリティの20世紀』2012, 452p

12. 野林厚志(単編著), 国立民族学博物館
『東アジアの民族 イメージ: 前近代におけ
る認識と相互作用(国立民族学博物館調査報
告 104)』2012, 171p

13. 野林厚志, 岩田書院「工芸生産をめぐる
民族間関係: 台湾におけるマジョリティとマ
イノリティの相互作用」pp. 209-238 『生業と
生産の社会的布置: グローバリゼーションの
民族誌のために』(松井健・野林厚志・名和
克郎共編)2012, 418p

14. 野林厚志, 東京堂出版「台湾における民
族考古学の系譜」『近代 日本意識 の成立
民俗学・民族学の貢献』(ヨーゼフ・ク
ライナー編)2012, 448p

15. 笠原政治, 東京堂出版「日本統治下の台
湾における民族学と馬淵東一」『近代 日本
意識 の成立 民俗学・民族学の貢献』(ヨ
ーゼフ・クライナー編)2012, 448p

16. 宮岡真央子, 関西学院大学出版会「蕃
租 を介した民族像 台湾原住民族ツォウ
を事例に」『東アジアの民族 イメージ: 前近
代における認識と相互作用』(国立民族学博
物館調査報告 104)(野林厚志編)2012, 171p

17. 宮岡真央子, 関西学院大学出版会「台湾
原住民族研究の『馬淵東一と台湾原住民族研
究』(笠原政治編)継承と展開」『日本の人類
学』(山路勝彦編)2011, 774p

18. 野林厚志, 昭和堂「台湾原住民族の文化
的営為としての狩猟活動」『グローバリゼー
ションと 生きる世界 - 生業からみた人類
学的現在』(松井健、名和克郎、野林厚志編)
2011, 493p

19. 野林厚志, 風響社「研究のための博物館
資料の収集調査
馬淵東一が台湾原住民族の物質文化
によせた社会人類学的関心と歴史人類学的
関心の二つの側面」『馬淵東一と台湾原住民

族研究』(笠原政治編)2010, 300p

20. 宮岡真央子, 風響社「馬淵東一のツォウ
研究素描」『馬淵東一と台湾原住民族研究』
(笠原政治編)2010, 300p

21. 笠原政治(編), 風響社『馬淵東一と台
湾原住民族研究』2010, 300p

22. 笠原政治, 風響社「『台湾高砂族系統所
属の研究』とその後」『馬淵東一と台湾原住
民族研究』(笠原政治編)2010, 300p

23. 森口恒一, 風響社「人類学者・馬淵東一
と言語学」『馬淵東一と台湾原住民族研究』
(笠原政治編)2010, 300p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野林 厚志 (Nobayashi Asushi)
国立民族学博物館・研究戦略センター・教
授
研究者番号: 10290925

(2) 研究分担者

森口 恒一 (Moriguchi Tunekazu)
静岡大学・人文社会科学部・名誉教授
研究者番号: 10145279

松岡 格 (Matsuoka Tadasu)
獨協大学・国際教養学部・准教授
研究者番号: 40598413

笠原 政治 (Kasahara Masaharu)
横浜国立大学・教育人間科学部・名誉教授
研究者番号: 70130747

宮岡 真央子 (Miyaoka Maoko)
福岡大学・人文学部・准教授
研究者番号: 70435113

(3) 研究協力者

陳文玲 (Chen Weng-ling)
国立政治大学・原住民族研究中心・助理教授

林志興 (Lin Zhi-xing)
国立台湾史前文化博物館・主任研究員

陳俊男 (Chen Chun-nan)
国立台湾史前文化博物館・研究員

林麗英 (Lin Li-yin)
国立民族学博物館・外来研究員